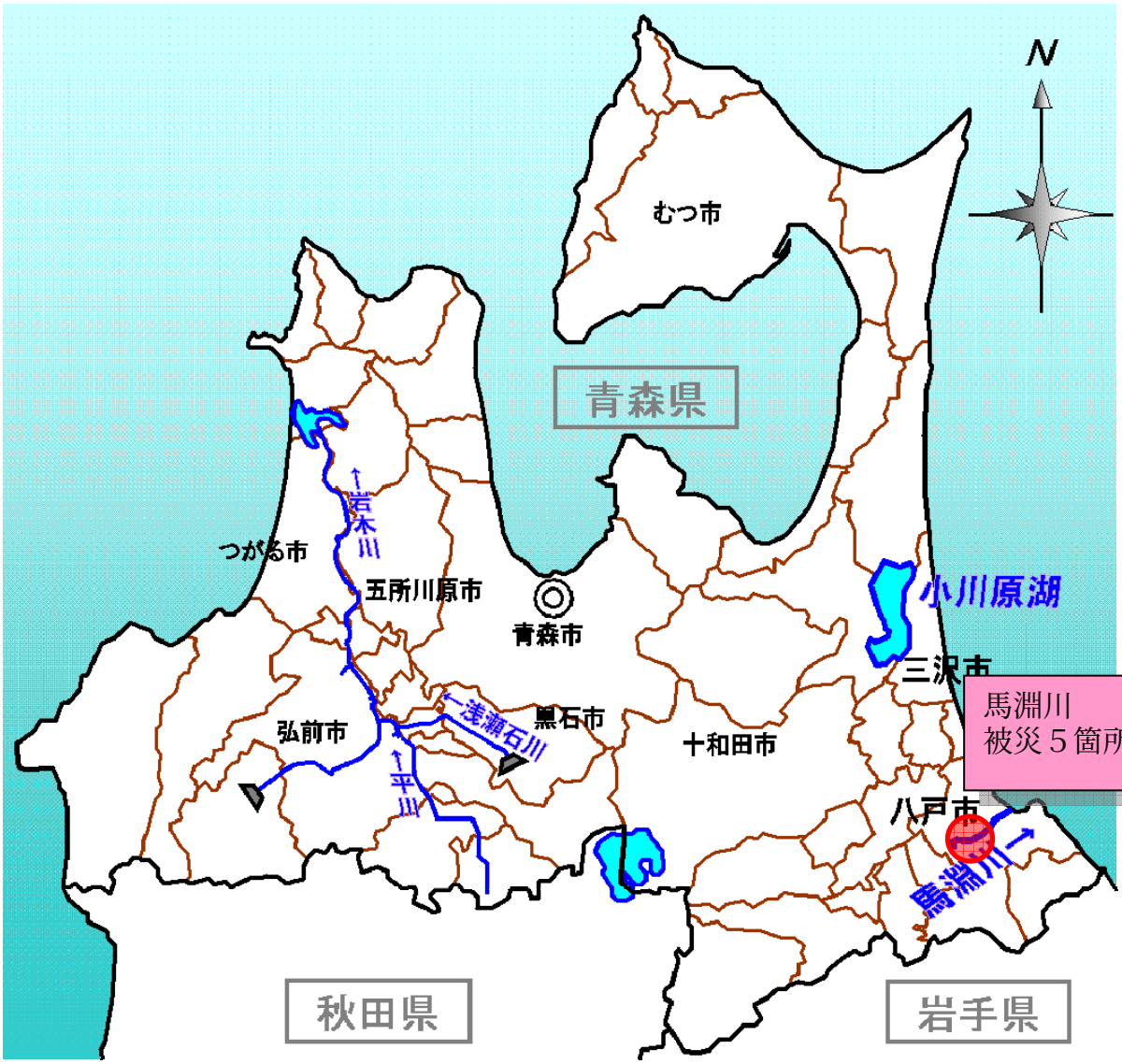
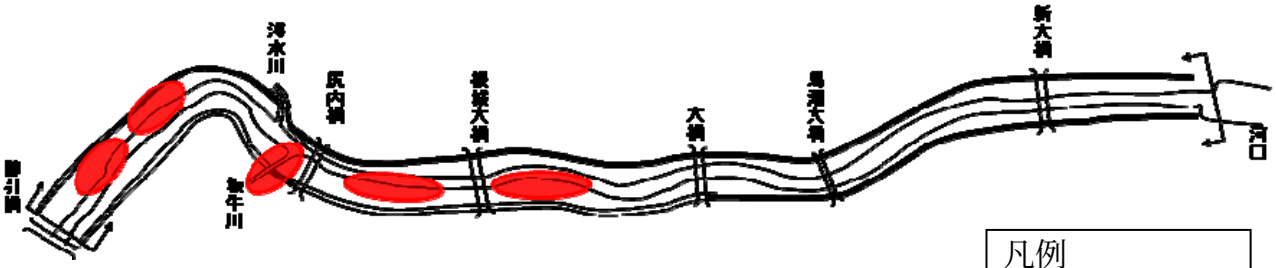
資料－１

■平成１９年９月１７日秋雨前線による災害復旧箇所一覧





凡例
被災箇所

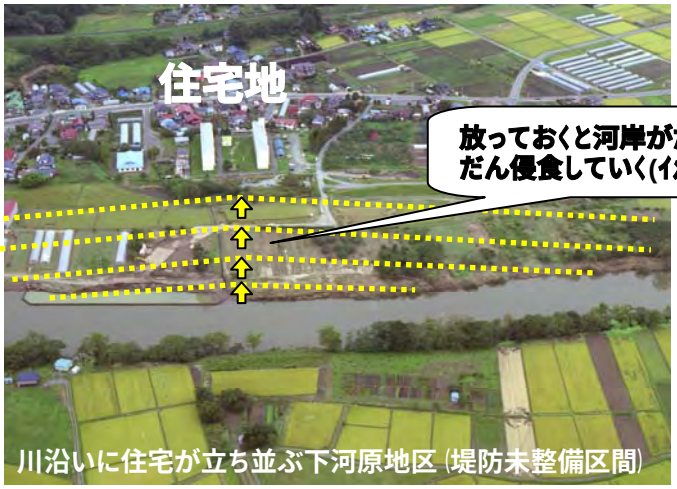
資料－２

■護岸の必要性

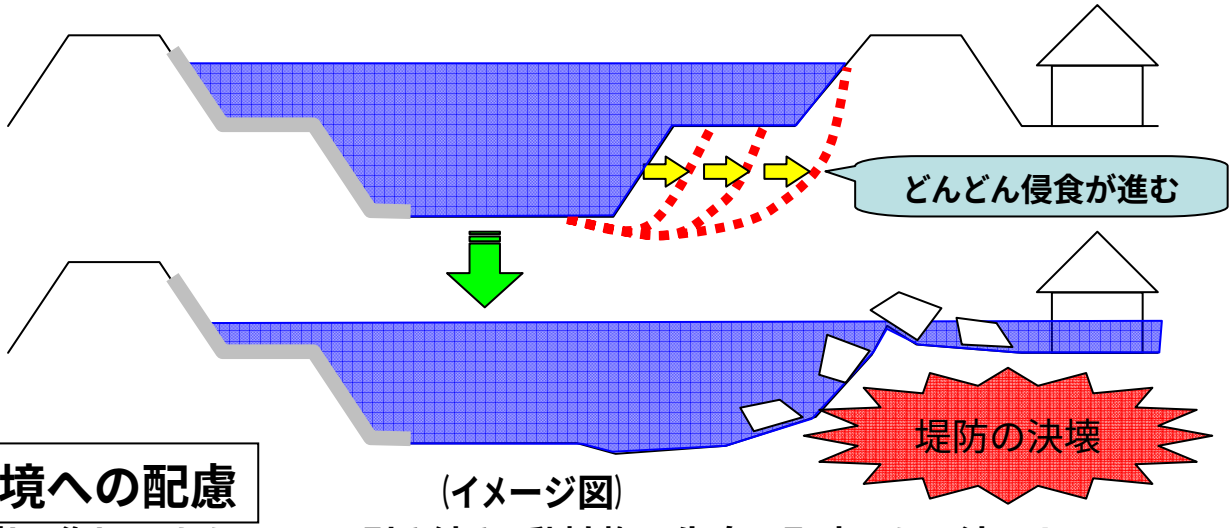
洪水時には川の流れが速くなり河岸が侵食されます。河岸が侵食されていき堤防に到達すると最悪の場合、破堤を引き起こし住宅地が浸水してしまうため護岸を設置しています。この他、今回の復旧箇所は堤防の未整備区間もあります。

こうした地区は、川沿いの住宅、幼稚園、農業取水施設、農地等があることから、これまでに河岸侵食を防ぐため護岸を設置していたものです。

馬淵川では平成１６年９月洪水では２０mの河岸侵食がありました。（一般的には平均２０m程度＜最大４０m程度＞全国的には１００mに及ぶ侵食もあります。



川沿いに住宅が立ち並ぶ下河原地区（堤防未整備区間）



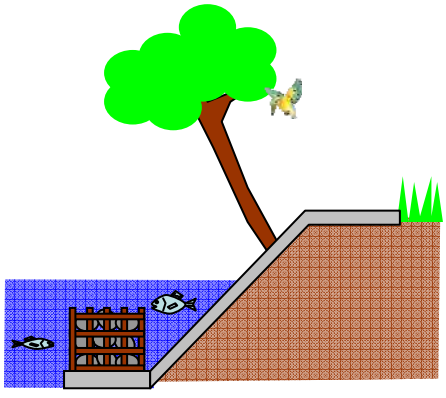
（イメージ図）

■環境への配慮

護岸の復旧にあたっては、引き続き、動植物の生息に配慮した工法とする予定で、河岸に在る高木を残したり、魚に配慮した自然石を利用した護岸とします。


環境･景観に配慮した護岸

（平成17年下河原地区の事例）

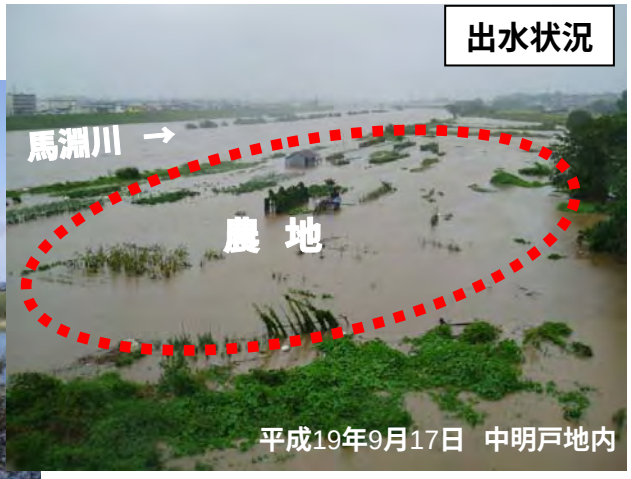

環境･景観に配慮した護岸（イメージ図）

資料－3

護岸破損状況



出水状況



護岸破損状況



護岸がずれて前に傾いている

護岸破損状況



出水状況



護岸の背面の土砂が流れて空洞になっている

護岸破損状況



出水状況

